

ここに来る前に地元の方から牛小屋があると聞いていたの牛小屋だと思っていただけに空家だった。おそらく以前は家畜や農道具を入れる小屋として使われていたものだと考えられる。このような空き家はほかにもいくつか見られ、過疎化が進んでいることが分かった。

①



この住宅では土地の区画を2つに分け農業や家畜で使用する肥料を置く場所で使用して土地が少ないからこそ共同で使っている。実際に住民の方にも話を聞き都農の農業などについて聞いた。

②



広大な田んぼが広がっていた。5月16日時点ではまだ田植えはされていなかったが、代掻きはされていた。都農町には夏季に収穫する超早場米があるが、これは普通期米である可能性が高い。季節ごとの作付けが土地利用や農家の労働計画に大きく関わっていることも理解できた。

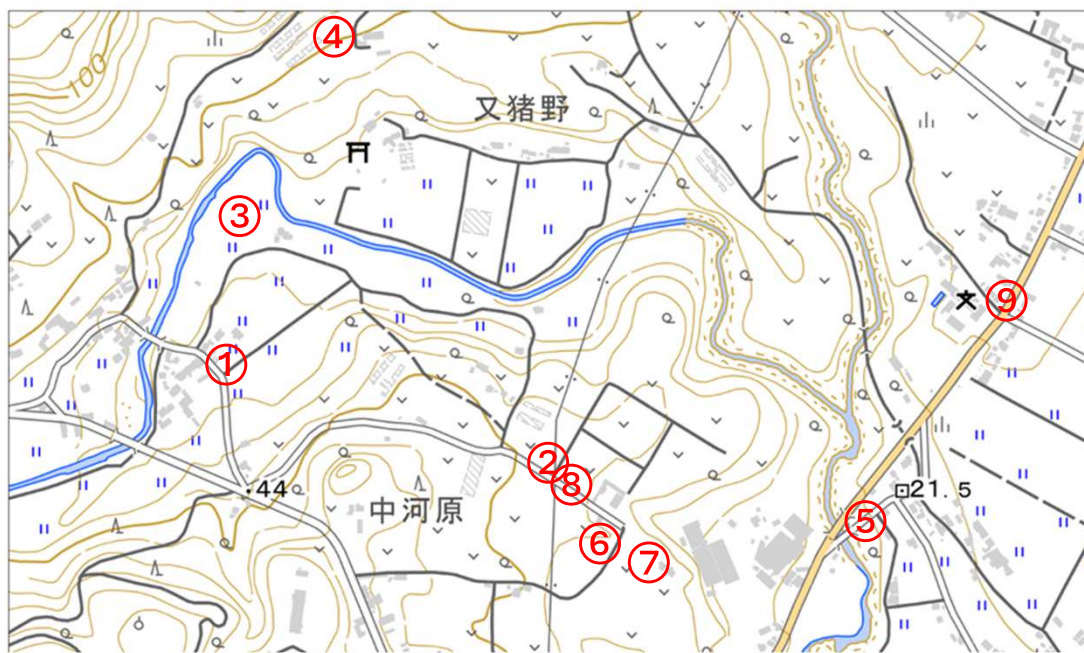
③



豊富な太陽光を活用した太陽光発電があり、再生可能エネルギーの供給や環境負荷の低減に貢献している。一方で大規模な太陽光パネルの設置により自然環境や山林の景観への影響が懸念されている。

④

私たちの様子



歩道の横には柑橘系の果物が実っていた。通行者に対して視覚的なおいや季節感を提供している。しかし、果実が落ちた際の処理や収穫などの管理面について考えるべきである。

⑤



ログハウスが畑の横に建てられていた。側面には小さなキャラクターの人形が横に並べられて置かれていた。おそらく、農業や山仕事の際に利用されている施設ではないかと考えられる。現在は周囲の植物が生い茂り、あまり利用されていないように見えた。

⑥



上下に設置されたカーブミラー。近くにはゴミが散らかっていたがカーブミラーはきれいだった。しかし、位置が低かったため改善する必要がある。ゴミや周りの雑草を取り除くことで見えやすくなり、安全に道をとることができると思う。動物が出てきそうな雰囲気もあったため、注意喚起の標識があるとよいと思う。

⑦



少し坂を登っていくと住宅と牛農家の方たちが土地を共有している場所があった。話を聞くと、最近では農業を中心に跡取りがほとんどいなくなってきている中でこの東都農の牛農家では唯一跡取りがいるため牛農家の継承はされていく。

⑧



都農東小学校前の歩道橋。風が吹いていてとても気持ちよかった。近くは大通りで横断歩道も少なく多くの小学生が利用していることが分かる。高さがあるため、落ちないように気を付ける必要がある。

⑨

まとめ

フィールドワークを通して身をもって感じたことは、自然が豊かで人が温かいことだ。私たちが担当する地域は民家や商家がほとんどなく、田んぼが多かった。一面に広がる田んぼには緑豊かに若い稲が青々と育っており、中にはアメンボや小さい虫がい生き生きと泳いでいた。歩いていると森の中に入り、近くには川が流れていた。そこでは、木々が生い茂り木陰道が続いたため、とても涼しく感じられた。周囲には獣道やイノシシが地面を掘ったと思われる跡も見られた。都農町の自然の豊かさを身近に感じることができた。また、出会った人の数は多くはなかったが、声をかけた人はみなとても親切だった。作業の手を止めて私たちの話を聞いてくださり、初めての聞き取りで緊張していた私たちにもこやかな表情でゆっくりと対応してくださった。少し変わった質問にも丁寧に答えてくださり、都農町の人々の温かさや優しさに触れることができた。今後はこのフィールドワークで得た経験を活かして、地域の魅力をより深く知るために積極的に現地の人と関わり、自ら進んで話を聞く姿勢を大切にしたい。